

原 著

澤蟹ヲ中間宿主トスル新吸虫ノ學名決定

臺灣新竹醫院長

醫學博士 中 川 幸 庵

余ハ本誌第二十二卷第十二號ニ於テ、新竹地方蕃地ノ赤蟹 *Potamon obtusipes* 及ビ澤蟹 *Potamon dehaanii* ヲ、中間宿主トスル小吸虫ニ就テ記述シ、該吸虫ハ未知ニ屬シ、其種屬ニ就テハ調査中ナルモ、恐ク新種ナルベク、其判明スルマデ、假ニ最初ノ發見地ニ因ミ、「カラバイデストマ」ト名ケ置キシコトヲ云ヘリ、之レ研究上便宜ヲ得ンガ爲メニ外ナラズ。

本虫ハ獨リ新竹地方ノミナラズ、阿緱、嘉義、南投ノ諸廳下ノ蕃地或ハ山地溪谷ノ蟹ニモ、其幼虫ノ宿レルコトヲ最近ニ於テ發見シ、其分布ノ頗ル廣汎ナルヲ知ルニ至レリ。

本虫ハ從來ノ文獻ニ存セザル處ノ新種屬ノ吸虫ナルコト、愈々判明セシガ故ニ、東京理科大學教授五島博士ノ高見ニ基キ、是ガ爲メニ *Stephanolecithus* ナル一屬ヲ新設シ、本虫ニ命ズルニ *Stephanolecithus Parvus* ナル種名ヲ以テセリ、而シテ右ノ屬名ハ、即チ卵黃巢ノ發達良好ニシテ、他ノ諸機關ヲ包圍セル特徵ヲ表示セルモノナリ、本屬ハ已

知ノ屬中ニテハ *Prosthogonimus* ニ近似セルモノトス。

本虫ノ体制其他ニ關シ近日更ニ詳報セント欲ス。

余ハ前回ノ報告後(昨年十月十三日)、更ニ亦生後八日目ノ子犬ニ、カラバイ蕃地蟹ヨリ多數ノ小形包囊ノミヲ分離シテ餌食セシメ、十一月五日(試食後二十二日目)屠殺剖見セシニ、其胆囊内ニ二十八條、肝臓中ヨリ二十六條、合計五十四條ノ成虫ヲ採集セリ、此ノ如キ多數ノ虫体ヲ得タルコト之ヲ以テ嚆矢トナス。

十二月中旬、五頭ノ白鼠ニモ餌食セシメタルニ、何レモ能ク感染シ、試食後二十一日目ノ虫体ハ成熟セリ、虫卵ノ糞便中ニ排泄セラルルハ、試食後二十四五日頃ヨリ始マル、而シテ現ニ生存セル二頭ニ於テモ常ニ本虫卵ヲ證明シツツアリ。

本虫ノ被包囊幼虫ハ、新竹地方蕃地ノ蟹ニハ、肺デストマ」ノ被包囊幼虫ト混合感染セルガ故ニ、此蟹ヲ生食スル風習アル蕃人間ニハ、肺デストマ」ト共ニ本虫ノ寄生スベキハ想像セラレザルニアラズ、然ルニ余ハ昨年十二月其最濃厚ニ浸淫セルカラバイ蕃地ニ到リ、同地附近ノ蕃人七十餘名ノ糞便ヲ検査セシモ、本虫卵ヲ發見スルコト能ハザリキ。

終ニ臨ミ高木博士ニ敬意ヲ表シ、五島博士ノ懇篤ナル指導ヲ謹謝シ、宮島博士並ニ小林氏ノ與ヘラレタル厚意ヲ深ク感謝ス。